

No.22 蔵王温泉の概要

少なくとも 1900 年間、蔵王には人間が住んでいた。温泉街の始まりは定かではないが、その水の特性はよく知られていた。「温泉の美」の名称、治療的で元気づける温泉は 1900 年代初頭に観光の流入をもたらした。蔵王温泉の水は強い酸性で、pH は 1.6～1.25 を示している。この酸性度は、さまざまな薬効があるが、金属を酸化して変色させることもあるため、湯治者は宝石やピアスに気を付ける必要がある。蔵王には 3 つの有名な温泉があり、そのどれもが 200 円の入浴料で一般に公開されている。

これらの温泉はとても古く、伝統的な施設なので、訪れるための正しい作法を知らなければならない。温泉は：片側が男性（男）、もう片側が女性（女）にわかれている。湯治者は湯船につかる前に体を流さなければならない。浴場自体には洗うスペースがなく、体を流さずに共同浴場に入るとは礼儀を知らないと見なされる。タオルは湯船に浸けてはならない。入浴者は頭の上にタオルを載せたり、お風呂の端に置いて大丈夫だ。浴場内での喫煙や乱暴な行為も禁止されており、犯罪に近いということで、入れ墨は日本社会ではタブーであり、入れ墨を入れた訪問者は入浴しないように求められる。